

2019 年度JF全国女性連通常総会開催

新会長に國分豊子副会長が就任

JF全国女性連(盛合敏子会長)は6月14日、東京・内神田のコープビルで2019年度通常総会を開催し、任期満了に伴う役員改選で、新会長に國分豊子副会長(北海道漁協女性部連絡協議会会長)を選出、同日就任した。



國分豊子新会長

総会では、① 2018 年度事業報告および収支決算の承認、② 2019 年度事業計画および収支予算の決定、③ 2019 年度会費の賦課並びに徴収方法、④役員改選—などの議案を原案通り承認したほか、JF全国女性連フレッシュ・ミズ部会部員による事例発表が行われた。

参加者全員によるJF全国女性連綱領の唱和、「漁協女性部の歌」斉唱に続き、盛合会長が挨拶。「東日本大震災以降、自然、気象の変化は年々度合いを増し、厳しい環境が続いているが、海に、港に、浜に、地域に、元気な女性たちの笑顔と連携があれば乗り越えていけると思う。各浜の女性部では長きにわたり、水質保全や海岸清掃などに取り組み、海の環境を守ってきたが、今後もそれぞれの女性部において、自分たちでできることを検討し、取り組んでいってほしい」と呼びかけた。



退任する盛合敏子会長

来賓の挨拶では、水産庁の保科正樹増殖推進部長が昨年度から女性にとって働きやすい漁業・水産業の現場改革や、漁業・水産業の魅力向上を後押しする「海の宝！水産女子の元気プロジェクト」を開始したことを紹介し、「女性の力で水産業の底上げを図っていききたい」と述べた。農林水産省経

営局の佐藤一絵就農・女性課長は、「漁業においても一人でも多くの人に就業してもらうための環境づくりが大事」とし、政府を挙げて取り組んでいる就職氷河期世代の支援について紹介。「多様な人材を受け入れられる農林水産業について、女性の皆さんの力を借りて、情報発信し、就業に繋げていききたい」と語った。

J F 全漁連の大森敏弘常務は、JF グループが取り組んでいる施策の現状報告を行い、水産改革における資源管理関係の制度運用について、「資源管理を実践する漁業者が納

得できる取り組みになるよう国に求めていく」とした。また、現在、協議を進めているJFグループの新運動方針について「男女共同参画による組織運動の活性化等の議論が開始されるので、JF全国女性連の日々の活動が輝く未来の第一歩となるよう取り組んでいきたい」と述べた。

議事終了後、新会長に就任した國分会長が挨拶し、「部員の減少や高齢化など、女性部の活動も厳しい状況にあるが、JF全国女性連の会員皆が一丸となって、若い世代と協力しながら一つひとつ頑張っていきたい」と抱負を述べた。

フレッシュ・ミズ部会部員の小寺さんが事例発表

このほか、フレッシュ・ミズ部会部員であるJF鳥羽磯部女性部菅島支部の小寺めぐみさん(三重県)が「磯と人、豊かなつながりに感謝して～わくわくどきどき菅島くらし～」と題した事例発表を行った。小寺さんは結婚後、夫のUターンで菅島に移り住み、「伝統や文化を重んじる島の暮らし

の中で、女性がどうしたら収入を得られるか」を考え、菅島特産の「糸わかめ」のブランド化に着手。女性部のほか、JF、県や市の関係者と協議を重ね、「海女漁獲物ブランド『海女もん』』として販売を開始した。

小寺さんは「離島への移住者で、配偶者が漁業者でなく、子育てをしていますが、誰かと共同・連携することで人生を豊かにすることができる」と語り、人との繋がりの重要性を強調した。



事例発表する小寺めぐみさん